

寄稿

# 『環境』の時代、小田原の役割

小田原市長 加藤 憲一

時代と社会の大きな潮流は、いよいよ明確に「環境」へと向かっています。国連が設定したSDGs(持続可能な開発目標)の国際的な共有、環境省が掲げる「地域循環共生圏」構想、企業経営におけるESG(環境・社会・企業統治)投資の拡大など、もはや公共分野だけでなく民間分野においても、この領域に取り組みねば取り残される時代。「環境」が「経済」に劣位であった数十年前とは、まさに隔世の感があります。

小中学生の頃から野山が好きで、高校時代は山岳部員、自然農や漁業にも取り組んできた私は、「環境」への強い

思いがあります。高校卒業時のクラス文集に、将来の夢を「環境庁長官」と記したほど。豊かな自然環境に抱かれた「いのちを守り育てる地域自給圏」づくりは、小田原市長としての極めて重要な使命と心得ています。

幸い、「森里川海」の全てが揃い、それを守り育てる人材にも恵まれた我が郷土・小田原。ここ数年、有機農業、里地里山づくり、ゴミ減量、再生可能エネルギー、木づかいのまちづくり、おだわら環境志民ネットワーク発足、荒廃農地再生など、多彩な活動が展開。環境

省や林野庁との連携は深まり、諸大学との協働も進みました。小田原は「環境」における先駆けの役割を果たすべきだと、私は思うのです。今後も、「SDGs」「地域循環共生圏」などのモデル都市に積極的にエントリートしていく考えです。



かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校・京都大学法学部卒。2008年5月小田原市長に初当選、現在3期目を務める。妻と子供2人の4人家族。

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力  
(加藤けんいち後援会)

小田原市栄町2-13-1-2F

TEL.0465-21-5260

(月・水・金 10:00~17:00)

<https://www.katoken.info>